

高森高校進路通信 - Upgrade👍9月号 -

文責 進路指導部

いよいよ2学期が始まりました。皆さんはどんな気持ちで新学期を迎えたでしょうか。夏休みが終わり憂鬱な気分も拭いきれないかと思います。それでも学校は始まり時間は進んでいきます。頑張らないといけないですね。そこで今回は、学校生活の最終目標である進路を考える上で皆さんのためになればと思い少し話をしてみようと思います。

1. 進路を考える

皆さんは自分が進みたいと思う進路がありますか？まだだだと思ってあまり考えていない人も多いかもしれません。そもそもやりたいことや興味があることが先にあってそれを頑張るから進路が決まるのでしょうか。それとも、学校の授業や探究活動など、なにかに取り組んでいるたらいつの間にかそれが自分の目標になっているのでしょうか。

夢を見つける、言葉のちから：
進路を考えるヒント

「夢」や「進路」は、日々の経験に名前を付け、意味を見出すことで形作られる

2. 意味と名付け

私たちは日常的に言語を使って生活しています。日本語で「猫」というと皆が「ニャー」と鳴く小型の生き物だというイメージを持ちます。同様に「犬」といえば「ワンワン」と吠える生き物であるとイメージを持ちます。これは私たち日本人がそういう生き物をまとめて、それに名前をつけているからです。ある物事に関しての共通認識や概念とそれ以外のものとの間に差異が生じたとき、その物事に対して名付けを行うことでそれらに意味を持たせているのです。そしてこのことは私たちが生活の中で、世界をどのように見ているかという認識を理解することにつながります。

世界を定義する「名付け」の力

言葉が意味を作る

物事に名前を付けることで、私たちは世界を認識し、意味を持たせています。



視点が変われば世界も変わる



日本語の「水/湯」や英語の「mouse/rat」のように言語によって重要視するポイントは異なります。

日本の話をしましたが、他の言語との違いを見てみましょう。例えば日本語で「ネズミ」というと大きにかかわらず全てが「ネズミ」です。しかし英語では小さいネズミは「mouse」と呼び、大きいネズミを「rat」と呼びます。英語圏の人たちにとってネズミは大きさが変わるとそれぞれ違う生き物として見えているわけです。逆に日本語で「水」というと常温の水を指し、「お湯」というと温かい水を指します。英語ではそれぞれ「water」、「hot water, boiled water」というように表され、日本で「ネズミ」と逆の現象が起きています。日本人にとっては温度の違う水はそれぞれに用途があり、独立した個別のものだとして認識されているのでしょう。このことから名というのは、ある概念やものに対して何に焦点を当て、どこが重要であるかによって世界から分節し、意味を与えるものだということがわかります。

3. 「夢」とは

さて、進路を考えるということに話を戻していきましょう。皆さんは「夢」とは何か説明できますか？高校卒業後にどんなことを学びたいか、将来どんな仕事をするか、そういうことだとなくなはわかっていると思いますが、いざ自分のことを語るとなると窮する人が多いのではないのでしょうか。

おそらく「夢」というものは、皆さんの中にすでにあるもので、まだ皆さんの認識する世界に分節されていないものなのではないでしょうか。かみ砕いて言えば、「知識や経験がまだまだ足りていないためにまだ自分自身で気づけていない自分の一部」だということです。学校での授業や探究活動、部活動をはじめとして、様々な知識や経験を積み重ねていくことで新たに見えてくるものは非常に多いです。そうして見えてきたものたちが皆さん一人一人の「夢」を形作っていき、意識できるものとして芽生えさせているのだらうと考えています。

3年生は受験を目前に控え、焦る気持ちもあるかと思いますが、これまで習ってきたことや考えてきたことを改めて振り返ってみてはどうでしょうか。なかなか面接で話せないで苦勞していると思いますが、きっと話すネタはたくさんあるはずです。1・2年生は今から「夢」を見出していく段階かと思っています。日々の学校生活や私生活での何気ないことにも意識を向けてみてください。ちょっとした発見がもしかするとあなたの「夢」を発掘する手がかりになるかもしれませんよ。

